

フードシステム学叢書

全巻完結

全5巻

齋藤 修 監修

『フードシステム学叢書』の刊行にあたって

日本フードシステム学会は、農業経済学研究者のみならず、流通論・栄養学・食品工学・食文化論などの研究者、さらに食品事業者・農業者・行政・ジャーナリストも加わった産官学と異業種連携を標榜してきた。つまりフードシステムの構造変化に対して、相互の連携をとりながら研究領域を拡大し、国や県の政策や企業・農業者の戦略とフードシステムのあるべき方向を模索してきた。こうした学会の姿勢は、研究者のみならず各界からの賛同を得ており、50 を数える学会から構成される日本農学会の中でも、会員が増加してきた数少ない学会である。

初代会長の高橋正郎先生は、「学問運動」として学会活動を位置づけ、関係者が「創発」する「場づくり」を重視された。特に、学会の総力を結集して刊行した『フードシステム学全集』全8巻は、初期における研究の集大成となった。それから10年以上が経過し、フードシステムの構造と経済主体の戦略が変化しただけでなく、政策的課題についても、食品安全や6次産業化などについて学会として議論を深化させてきた。当学会では、当初から産官学での取り組みや学際領域への拡大を課題としてきたことにより、新しい視点からの研究を取り込むことができた。

この10年余りで学会員は増加したが、初期の主導的会員のリタイアを迎え、次の世代の担い手が新しい研究課題に取り組める研究のベースをつくる必要性が高まった。また当学会は、農漁業と食品産業の関連を重視したアグリフードシステムとしての性格を持ってきたこと、また消費者の役割と信頼形成を重視してきたこと、さらに食品企業の市場構造と経営戦略を扱ってきたことなどから、研究領域は広く、ややも

すると拡散しやすいきらいもある。

そこで、今後とも重要性が高まると想定される課題について、4つの戦略的な研究領域に絞り込み、『フードシステム学叢書』全4巻を刊行することにした。全4巻の内容は、第1巻：茂野隆一・武見ゆかり編「現代の食生活と消費行動」、第2巻：中嶋康博・新山陽子編「食の安全・信頼の構築と経済システム」、第3巻：下渡敏治・小林弘明編「グローバル化と食品企業行動」、第4巻：齋藤修・佐藤和憲編「フードチェーンと地域再生」である。この4つの領域は、これまで学会として一定の議論を蓄積してきており、先進性と体系性においても優位性を持ちえると自負している。また、当学会には新規の会員が多いことから、学会設立20年間の活動と成果を20周年記念誌『フードシステム学会の活動と展望』として刊行し、当学会のこれまで培ってきた基盤を共有化したいと思う。

以上のように、学会の世代交代が進展することによって、本学会の迎ってきた活動と成果を整理し、新たな課題や方向を会員間で共有する必要性が高まってきた。本叢書と20周年記念誌はそのための基盤づくりに貢献し、また次世代を担うことになる若手研究者の研究成果を盛り込むことで、本学会の革新につながることを期待される。さらに、フードシステム研究に関心を持つ多くの読者が、本叢書から新しい研究や実践的活動へつなげる契機を見つけていただくことも大いに期待している。

「20周年記念誌」は、フードシステム学叢書第5巻として刊行することとした。

2016年3月

日本フードシステム学会会長 齋藤 修

●注文書 ご注文は、FAX. 03-3511-0059 へお申し込みください

フードシステム学叢書 第1巻 を 冊 注文します。
第2巻 を 冊 注文します。
第3巻 を 冊 注文します。
第4巻 を 冊 注文します。
第5巻 を 冊 注文します。

お名前： _____ 所属先： _____

郵便番号： _____ ご住所： _____

TEL. _____ FAX. _____ 備考： _____

フードシステム学叢書 全5巻

第1巻 現代の食生活と消費行動

序章 現代の食生活と消費行動

総論1 食生態学の視点から見た食行動・食環境

総論2 食料消費分析の動向と展望

第I部 現代社会と食料消費

第1章 フードシステム分析に基づくフェアトレードの意義と課題—キリマンジャロ・コーヒーの価格・品質分析—

第2章 高齢者の健康とフードシステム—食の外部化、食料品アクセス問題と食品摂取

第3章 現代社会とフードデザート

第4章 食品廃棄および食品ロスの実態と今後の課題

第5章 食生活と消費に関する事件・事故・法規制と農業・食品関連企業の株価変動

第6章 公共財的属性とフードシステム

第7章 贈答品としての食料消費

第II部 食育と地域

第8章 日本の食生活変化食育の重要性

編集担当：茂野 隆一・武見 ゆかり A5判上製・358頁 4,000円

第9章 わが国の学校給食と食育

第10章 フランスの小学校における食文化を取り入れた食育の多様な試み

第11章 フランスにおける地産地消の展開—AMAPを中心に—

第III部 食と健康・栄養

第12章 健康寿命の延伸と食環境整備

第13章 栄養疫学視点からの健康状態・食事内容の変遷

第14章 機能的農作物・食品開発の流れと消費者意識

第IV部 生産・流通と食料消費

第15章 わが国における青果物購買行動の基本的特徴—青果物の商品特性の視点から—

第16章 消費者の地産地消志向に対応した大豆加工食品企業の製品差別化—豆腐、納豆を事例として—

第17章 有機食品の購買層の意識と行動

第18章 小麦の需要構造の変化と小麦生産

第19章 工房製チーズに関する消費者行動と広告コミュニケーション

第20章 農産物流通における競争と食料消費行動への影響に関する経済分析

第2巻 食の安全・信頼の構築と経済システム

序章 食の安全・信頼の構築と経済システム

第I部 総論

第1章 フードシステムの展開と食の安全・信頼問題

第2章 食品安全行政におけるリスク低減の枠組みとレギュラトリーサイエンス

第II部 課題と研究

第3章 食の安全・信頼の計量経済研究

第4章 安全性評価と消費者意識

第5章 安全感から見た消費者意識

編集担当：中嶋康博・新山陽子 A5判上製・262頁・3,200円

第6章 食品安全の規格・認証制度の機能と課題

第7章 新しい科学技術とその評価—遺伝子組換え・ナノテクを事例として—

第III部 制度と研究

第8章 食品安全確保のための国内における制度

第9章 食品安全確保のための国際的な枠組みと主要国の動向

第10章 トレーサビリティ

第11章 獣医経済疫学の展望と課題

第12章 フード・コミュニケーション・プロジェクト

第13章 国際的な適合性評価スキーム

第3巻 グローバル化と食品企業行動

序章 グローバル化の下での食品企業の課題と本書の構成

第I部 グローバル化と国際分業の新展開

第1章 オープン・リージョナリズムと国際分業の新展開

第2章 食品産業の産業内貿易の理論と現実

第3章 食品企業の海外立地選択行動：新経済地理学からの接近

第4章 フードシステムの成長とアジア経済—アジア国際産業連関表による分析—

第5章 わが国フードシステムをめぐる経済環境—地域貿易協定の展開と交易条件—

第II部 食品企業の海外展開とその戦略

第6章 食料品開発輸入の転換期—中国産冷凍野菜を事例として—

編集担当：下渡敏治・小林弘明 A5判上製・250頁・3,000円

第7章 中国における日系食品企業のパートナーシップ形成

第8章 アジアにおける日系流通企業の展開と課題

第9章 グローバル化時代の食文化と日本食の海外進出

第10章 日系食品企業のASEAN（GMS）への直接投資とその戦略—タイ国への直接投資を中心として—

第11章 米国の食品市場と日系食品企業の市場行動

第12章 ブラジル・セラード開発を起点とした日系アグリビジネスの展開—ダイズ調達をめぐる日系商社の動向—

第13章 海外即席麺市場における特許出願動向とイノベーション

第14章 機能的食品の市場・政策の動向と製造企業の海外進出

第4巻 フードチェーンと地域再生

序章 フードチェーンと地域再生

第I部 フードチェーンをめぐるイノベーションと研究課題

第1章 6次産業・農商工連携とフードチェーン—論理と検証

第II部 フードチェーンをめぐる基本問題

第2章 フードシステムへの新制度経済学からの接近

第3章 農業におけるビジネスモデルの意義と課題—野菜農業を事例として—

第4章 情報共有化の進展と協働型マーケティング

第5章 農畜産物の産地マーケティング

第6章 インテグレーションの国際比較：契約型と所有型

第7章 フードシステムにおける価値共創型の製品開発—今後の研究方向を中心に—

第8章 食料産業クラスターと地域クラスター

編集担当：斎藤修・佐藤和憲 A5判上製・340頁・3,800円

第III部 地域再生とフードチェーン

第9章 6次産業化の取り組みの特徴と課題

第10章 農産物直売活動の国際比較

第11章 農産物ブランド化への取り組みに関する国際比較

第12章 オルタナティブ農業とローカルフードシステムの現段階

第13章 女性起業の地域経済主体への可能性

第14章 新品種・新技術普及を目指したコンソーシアム・プラットフォームの展開

第15章 地域再生と社会的企業—その存続のための経済的論理—

第16章 JAの組織活動と地域再生

第17章 水産フードシステムと地域資源

第5巻 日本フードシステム学会の活動と展望

序章 日本フードシステム学会の活動と展望

第I部 学会活動

第1章 日本フードシステム学会の設立の背景と当初の活動

第2章 日本フードシステム学会の活動と成果

第3章 日本フードシステム学会における関東支部・研究会の活動

第4章 フードシステムと政策研究：さらなる深化のために

第5章 BSE問題と食品安全政策—「調査検討委員会」に参画して—

第II部 新展開

第6章 食料・農業・農村基本計画におけるフードシステム関連政策

第7章 食品安全政策の展開方向

第8章 グローバリゼーションとバリューチェーン—学会における研究動向と展開方向—

編集担当：斎藤修 A5判上製・296頁・3,500円

第9章 医食農連携とフードシステム—超高齢社会における給食・配食サービスの展開—

第10章 フード・コミュニケーション・プロジェクトに関する研究の展望

第11章 JAの販売事業革新とチェーン構築

第12章 漁村地域ビジネスの再構築とフードチェーン

第III部 中国のフードシステム研究

第13章 中国における農産物流通システムの変革

第14章 中国食品企業の成長と農業との連携

第15章 中国におけるイーコマースの発展とフードシステムの革新

第16章 中国の農家収入、安全意識と生物農薬の選択

第17章 日本フードシステム学会の成果